月　日 名前 ／100点

【答え】

【小6】国語 文章問題　説明文 1

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

「ふつうはこうするよね。」わたしたちは、この言葉を何気なく使っています。しかし、その「ふつう」は、本当にだれにとっても同じものなのでしょうか。

たとえば、目玉焼きに何をかけて食べるかを、友だちにたずねてみてください。しょうゆと答える人もいれば、塩だと言う人、ソースでなければいやだと言う人もいるはずです。それぞれが、自分の家で当たり前だった食べ方を「ふつう」だと思っているのです。

つまり、「ふつう」とは、みんなに共通する決まりではなく、その人がこれまでに見聞きしてきたことの積み重ねから生まれた感覚だと言えます。育った家や地域、出会ってきた人がちがえば、「ふつう」がちがうのは当然のことです。

問題になるのは、自分の「ふつう」を相手にもおしつけてしまうときです。「ふつうはこうでしょう。」という言い方には、そうしない相手をおかしいと決めつけるひびきがあります。言われた側は、自分が大切にしてきたやり方を否定されたように感じるかもしれません。

では、どうすればよいのでしょうか。大切なのは、自分の「ふつう」を、たくさんある「ふつう」の一つだと知っておくことです。そう考えれば、自分とちがうやり方に出会ったとき、「おかしい」ではなく「おもしろい」と感じられるようになります。ちがいは、自分の世界を広げてくれる入り口にもなるのです。

（この問題のための書き下ろし）

問一　筆者は、「ふつう」とはどんなものだと言っていますか。「～から生まれた感覚」につづくように、本文から三十字までで書きぬきましょう。

その	人が	これまで	に見	聞き	してき	たこと	の積	み重ね											

問二　目玉焼きの例は、何を説明するために挙げられていますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　目玉焼きには、しょうゆをかけるのがいちばんよいこと。
イ　家で食べる料理は、どこの家でも同じだということ。
ウ　人によって、「ふつう」だと思っているものがちがうこと。

ウ

問三　筆者が、自分の「ふつう」を相手におしつけることを問題だと考えるのはなぜですか。四十五字までで書きましょう。

そう	しない	相手	をおか	しいと	決めつ	ける	こと	になり	、相手	がやり	方を	否定	され	たと	感じる	から	。		

問四　この文章で筆者がいちばん言いたいことは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　みんなが同じ「ふつう」を持つように、決まりを作るべきだ。
イ　自分の「ふつう」を一つの考え方だと知っておけば、ちがいをおもしろいと感じられる。
ウ　自分の「ふつう」は、人に言わないほうがよい。

イ

【小6】国語 文章問題　説明文 Ⅰ　答えと解説

問一（二十五点）　答え：その人がこれまでに見聞きしてきたことの積み重ね

解説：三つ目のまとまりの最初の文から。「みんなに共通する決まりではなく」と、ちがうものとくらべて説明している。

問二（二十五点）　答え：ウ

解説：二つ目のまとまりの最後の文から。アは筆者の考えではない。イは本文と反対。

問三（二十五点）　答えの例：そうしない相手をおかしいと決めつけることになり、相手がやり方を否定されたと感じるから。

解説：四つ目のまとまりから。「決めつける」ことと「相手が否定されたと感じる」ことの二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①そうしない相手をおかしいと決めつけてしまう

②相手が、大切にしてきたやり方を否定されたように感じる

問四（二十五点）　答え：イ

解説：最後のまとまりから。アは「共通する決まりではなく」という本文と合わない。ウは本文に書いていない。

free-print.net　|　文章・問題は free-print の書き下ろし　|　学校・塾での印刷・配布は自由です